

ごみゼロネット推進会（第15回）議事録

開催日： 2009年（H21年）10月5日（月）10:00～12:00

場所： ウエスト

出席者： 平林、市原、杉本、大橋、加賀谷、伊藤、桐生（作成）

議題：

1. 「かんきょう博」出展予定資料をプロジェクタで紹介（大橋）

- (1) 小金井市のごみ処理関連の統計
- (2) 紙ごみの問題と情報のペーパーレス化（新聞、雑誌、チラシが電子化する時代が来る）
- (3) 久喜宮代HDMの見学記： 以上3件は今後、取捨選択して頁数を圧縮する。

2. 生ごみのキッチンその場処理の紹介と討議

- 伊藤氏より生ごみについての問題提起あった後、市原氏より「モデル地区を作って、生ごみの分別収集を小金井市で実行することを推進してはどうか」との提案があった。ただ、「各地の経験から、この方式で期待できる参加所帯数の最大数は5000程度である」と限界についても説明があった。
- 平林氏より「キッチンの下部空間に納めることができる消滅型の厨芥処理装置がある」として「シンクピア ジャパン（株）」の設備について紹介があった。ネット検索で製品カタログを出して説明した。①バイオ処理する微生物はプラスチックの担体に付着している、②プラスチックのケース内で攪拌機が1時間に4回、1分間に2回転する、③型名 SJ-200 は処理能力1kg/日、外形は H445×B403×D238、価格約 25万円、④鶏・牛・豚の骨、タマネギの皮、貝殻等は処理できない、⑤匂いはしない。
- 平林氏より「同等設備を別のメーカーで安価に製造させ、市民の手で取付・メンテを引き受ける方式で普及させたい」と提案あり、一同、基本的に賛成。
- 加賀谷氏がネット検索して「イズミクリーン」がヒット。ディスポーザと処理槽の組合せで動物の骨、貝殻も粉碎する、20分の1に減量して取りだし、堆肥等として活用か廃棄。
- 桐生が帰宅後に検索したら、「クリーンテック（株）」がディスポーザで粉碎し、屋外の専用バイオ処理槽で処理するシステム製品（戸建て住宅用、集合住宅用、業務用）を販売していた。製品はいろいろあるようだ。

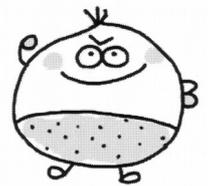
3. 11/14かんきょう博のパネル展示物の割付相談（伊藤）

2m巾のパネルをA室に8枚、B室に4枚展示する。A室の展示物は相談の結果、次のようになった。

- ①炭素化、②亜臨界水、③低圧高速発酵、④ HDM、⑤シンクピア、⑥業務用乾燥式、⑦業務用発酵式、⑧堆肥化
- B室のごみ処理新技術4パネルについては大橋氏桐生からも原稿提供する。A室分も含め、大橋氏ご担当のものが多いが、宜しく。

4. その他

- 生ごみ処理として有望な久喜方式の具体化を進めたい。12/2に「ごみゼロネット」がバスで見学に行く。我々も見学の機会を設けたい。（平林）
- 久喜は見学申し込みは自治体を通してくれと言っている。議員に仲介を頼み、11/6（金）に見学会ができるように働きかけてみる。（市原）



以上

次回打合せ 日時： 11月9日（月）14:00～16:00 / 場所：公民館東分館和室

備考： 東分館はウエストに近い連雀通の南側 50m奥にあります。

